

校長通信

第6号 R1. 9. 17

世界を見に行くんじゃない

世界を、変えに行くんだ！

新しい形の海外研修を紹介します。その名もM o G

Mission on the Ground

です。M o Gは、実際にアジアの国々で環境や貧困、経済格差などの社会問題にビジネスを通じて解決しようとしている人たち（この人たちをチェンジメーカーと言います）、すなわちソーシャルビジネスを手掛けている人たちから投げかけられる超現実的な問題に、高校生がチームで挑む研修です。

私が、M o Gを知ったのは、東京で開催された「未来のマナビフェス」で行われたポスターセッションでした。通常の語学研修に「何か一つプラスしたい」と前から思っていたところに、M o Gを主催するvery50のポスターが目にとまりました。そして、彼らの掲げる「世界を見に行くんじゃない 世界を、変えに行くんだ！」というキャッチコピーは、私の心にズドンと来ました。話を聞いていると、私が考えていた海外研修、これからの21世紀社会を生きていく力を育むプログラムのだ真ん中！

帰阪すると、早速担当者からメールが来ていました。「Very50の代表の菅谷氏が、大阪に行く用事があるので、今宮高校に行ってもいいですか？」という申し出。8月30日に学校に来てもらいました。菅谷氏とは、約2時間話し込み、彼がなぜM o Gのようなプログラムを始めたかという熱い思いを聴きました。

さて、前置きはこのくらいにして、一体M o Gとは、どんなものなのか、その一つを紹介しましょう。この研修を主催するvery50のwebpageからの紹介です。<http://very50.com/project/detail.php?id=822>

郊外の村で子育てをしているお母さんに、安定した収入を

チェンジメーカーのカンボジア人女性、Srors（スロアーズ）は弱冠27歳にしてRokhak（ルッカ）を立ち上げました。ルッカでは、貧困家庭や農村出身者の女性（特にお母さん）たちを雇用し、ウォーターヒヤシンス（水草の一種）から作られるハンディクラフト雑貨（バッグやカーペット等）の生産、そして販売を行っています。この事業を通じて、シェムリアップ郊外の村に暮らす子育てで時間がないお母さんたちに、適切で安定した収入をもたらしています。カンボジアでは、男性の収入のほとんどが生活費として消えてしまいます。そのため、子どもが学校に行くための教育費などは、女性が稼がなければなりません。ルッカは村のお母さんたちの収入を増やすことを通じて、彼女たちの“今”だけでなく、カンボジアの“未来”を創造する、大きなビジョンを掲げています。



ルッカの成長と展望

創業から3年。未だに資金繰りや人材採用、生産管理など様々な課題に直面をしている中、明るいニュースもあります。シェムリアップのいくつかのお店に、商品を置いてもらえるようになったのです。これを受けて、今

後は日本人から人気の高い観光地であるシェムリアップの土地柄を活かして、日本人向けの販売を強化していく戦略です。まずは600万人にも及ぶ世界的な観光地-シェムリアップの”誰”をターゲットに設定をしていくの
かをリサーチが必要です。正しいターゲットに合わせた商品づくりをしていくことが、これからのルッカの成長の重要な鍵を握ります。

今回の MoG のミッション

今回の MoG のミッションは、他では販売をしていないような新商品開発及びプロモーション戦略を作ることです。また、6月より新しい店舗ができるために、店舗改善の為に参加者の皆さんが店頭に立ち、世界中から集まる観光客に販売をすることもできるかもしれません。現地では、スロアーズが住んでいる東南アジア最大の湖であるトンレサップのふもとにて活動することになります。弱冠27歳のカンボジア女性起業家のスロアーズ率いるルッカにて、経済的に非常に苦しい立場にある子育て中の母親のために、問題解決に挑みます！

このプロジェクトは、実際に2018年の夏に行われたものです。このようなプロジェクトが、アジアの各地でMoGとして行われています。

このような海外研修に参加するために、事前研修を行います。時間は約20時間～25時間。



研修の内容は、ビジネスに必要なクリティカルシンキング、マーケティング理論、プロジェクトプランニング、などなど。これらを勉強して、チェンジメーカーから与えられたミッションに対して、グループで解決策の仮説を立てるのです。その仮説を実証しに、現地に向かいます。ミッション終了後にフォローアップ研修もあります。

それでは、実際にMoGに参加した高校生の声を紹介しましょう。

2015年冬にインドネシアプロジェクトに参加した東京都私立高校2年(当時)白井君の例。彼と彼の保護者のコメントを紹介します。

=白井君本人=

「2か月間のトレーニングの後、インドネシアのチサロバ村に行きました。衝撃だったのは、村の至る所にあるゴミの山。そんな中、意外なことにゴミ箱はいろんな所に設置されていたのです。人間は、単に設備が整っていても思った通りに動いてくれないことに気が付きました。ポイ捨てをする子供たちの感情を分析して作り出したのが「思わず遊びたくなるバスケットボール型ゴミ箱」。成果も嬉しかったですが、それ以上に世界にはどんな問題があり、自分の力を何に使いたいのかがすごくはっきりして、大学の学部など進路の最も大きな決め手になりました。

=保護者の声=

「大学受験がゴールではなく、その先を見据えて受験勉強をするようになってくれました。将来、海外で活動していく事になるのが当然の事のようにとらえていて、本当に文字通り視野が広がりました。教室の中、学校の中、日本の中ではきっと手に入れることができなかつた広い視野を持って、目的をもって高校生活を送ってくれているのがうれしいです。」

臼井君は、高校卒業後、AO入試で上智大学に合格したということです。実際、このMoGに参加した高校生のAO入試合格率は95%です。関東では、慶応・早稲田・上智に、MARCH。関西では、関関同立です。

菅谷氏の話によると、公立高校にMoGの話題で呼ばれたのは、今回が初めて。今まで私立高校ばかりがMoGに参加していました。関西では、

立命館宇治高校
奈良育成高校
近畿大学付属高校
箕面自由学園
京都橘高校
雲雀丘学園

などです。京都橘高校と奈良育英高校の合同チームが、MoGに参加した紹介ビデオと彼らへのインタビュー動画があります。是非見てください。校長ブログにもMoGの紹介をするので、ブログからも動画にアクセスできます。

■MoG 紹介動画：

<https://youtu.be/FdMwZzFVE30>

■MoG インタビュー動画：

<https://youtu.be/RVEYx4V0uf8>

さて、保護者・生徒の皆さん、もしこのMoGに興味を持たれたなら、一度 very50 のスタッフに今宮高校に来てもらって、説明会を開催したいと考えています。費用は、

事前研修+海外研修+事後指導=約 30 万円

です。宿泊先は、ホームステイではなく、ホテルです。健康面では、日本語+24時間体制+オンラインで相談できます。スタッフは、very50 (6名)+インターンの学生 (6名) が付き添います。高校生の最低チーム人数は、11名、MAXは15名。15名を超えると2チームの参加になります。他校の生徒との合同チームも考えられます。必要な英語力は、英検3級があれば、十分。

MUSTは、熱い心とクリエイティブな頭！

MoGの話を知りたい！という人は、校長のメールアドレスに「MoG説明会参加希望」としてメールを送信してください。一定の人数が集まれば、very50に依頼します。